

SOPHOS

Cybersecurity
made
simple.

Sophos Enterprise Console

移行ガイド

製品バージョン: 5.5

目次

このガイドについて.....	1
用語の説明.....	2
お読みになる前に.....	3
前提条件.....	4
導入ステップ.....	5
移行元サーバーの準備.....	6
Update Manager のパスワードの確認.....	6
Sophos サービスの停止.....	6
データ、レジストリ、および Secure Store のバックアップ.....	7
Enterprise Console のデータベースのインストール.....	9
データベースと証明書のレジストリキーの復元.....	10
Enterprise Console の管理サーバーおよび管理コンソールのインストール.....	11
Sophos サービスの停止.....	11
移行先サーバーのデータのバックアップ.....	13
レジストリおよび Secure Store のインポート.....	14
すべての Sophos サービスの開始.....	17
エンドポイントの参照先を移行先サーバーのアップデートマネージャに変更する方法.....	18
アップデートポリシーの設定.....	19
エンドポイントの参照先を移行先 Enterprise Console にリダイレクトする方法.....	20
保護されていない子 SUM を移行先サーバーのアップデートマネージャにリダイレクトする方法.....	22
リモートコンソールの参照先を移行先サーバーにリダイレクトする方法.....	23
移行元サーバーの使用の停止.....	24
補足.....	25
補足 A: 移行先サーバーの準備.....	25
補足 B: エクスポートしたレジストリ ファイルの編集.....	27
テクニカルサポート.....	28
利用条件.....	29

1 このガイドについて

このガイドでは、サーバーにインストールされている Sophos Enterprise Console (SEC) を別のサーバーに移行する方法について説明します。サポートされる Windows OS (32ビットまたは 64ビット) 間で、Enterprise Console を移行する際に、このガイドを参照してください。

このガイドは、Sophos Enterprise Console 5.5 以降を対象としています。

注

このガイドは、現在お使いの Enterprise Console を別のサーバーに移行する方法について説明するものです。記載されている手順に従って Enterprise Console を移行しても、他のメジャーバージョン、マイナーバージョン、メンテナンスバージョンなどにはアップグレードされません。アップグレードを行う場合は、「Enterprise Console アップグレードガイド」を参照してください。

Sophos Enterprise Console の製品ドキュメントは次のサイトから入手可能です。 <https://www.sophos.com/ja-jp/support/documentation/enterprise-console.aspx>

2 用語の説明

このガイドで使用している用語の説明は、以下の表を参照してください。

用語	意味
移行元サーバー	既存の Enterprise Console サーバー。
移行先サーバー	既存の Enterprise Console を移行する新しいサーバー。
旧 ID	移行元サーバーの識別情報: コンピュータ名、ドメイン、IP アドレス (固定の場合)。
新 ID	移行先サーバーの識別情報: コンピュータ名、ドメイン、IP アドレス (固定の場合)。コンピュータ名 (および IP アドレス) は、旧 ID と異なっている必要があります。ドメイン名は同じである必要があります。

3 お読みになる前に

このガイドは、以下を前提に書かれています。

- 旧サーバー (移行元サーバー) にインストールされている Enterprise Console を新サーバー (移行先サーバー) に移行する。
- 移行元では、Enterprise Console のすべてのコンポーネント (管理コンソール、管理サーバー、およびデータベース) が 1台のサーバーにインストールされており、稼働可能である。
- 同じバージョンの Enterprise Console を他のソフト製品がインストールされていない移行先サーバーにインストールする。移行先サーバーに、ソフト製品やコンポーネントをインストールしたことがある場合や、現在インストールされている場合は、[補足 A: 移行先サーバーの準備](#) (p. 25)を参照してください。
- 新しい ID を持つ移行先サーバーに Enterprise Console を移行する。
- ユーザーアカウントを作成する場合は、ネットワーク環境に基づいて作成する。たとえば、ワークグループ環境ではローカルアカウントを作成し、ドメイン環境ではドメインアカウントを作成する。
- 移行元サーバーや移行先サーバーにカスタムデータベースをインストールする、または使用する場合は、照合順序の設定が一致することを確認する。
注: SQL サーバーの照合順序のデフォルト設定は、インストール先コンピュータのロケールによって異なることがあります。
- Enterprise Console が、移行元サーバーでデフォルトの場所にインストールされており、移行先サーバーでもデフォルトの場所にインストールする。デフォルト以外の場所の場合、このガイドで指定しているフォルダのパスを適宜変更する必要があります。
- 移行元サーバーのローカルディスクに Sophos Update Manager (SUM) がインストールされている。ネットワーク上に他の SUM が存在する場合は、そのアップデート元が移行元サーバーのローカル SUM に設定されている。
- 移行元サーバーと移行先サーバーが同じドメイン内またはワークグループ内にある。
- 移行元サーバーと移行先サーバーのいずれもドメイン コントローラでない。
- 移行元サーバーと移行先サーバーの両方に対して、必要な管理者権限がある。
- 移行プロセスの一環として、移行元サーバーと移行先サーバー間で転送されるファイルはすべて、セキュリティで保護された場所やデバイスを使用して保管・転送される。

4 前提条件

サーバーでユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしている場合、UAC を無効にし、サーバーを再起動します。

UAC は移行を完了した後で、有効に設定し直せます。

5 導入ステップ

Enterprise Console を移行先サーバーへ移行する主なステップは次のとおりです。

- 移行元サーバーを準備する (Update Manager のパスワードの確認、データのバックアップなど)。
- Enterprise Console のデータベースを移行先サーバーにインストールする。
- データベースと証明書のレジストリキーを移行先サーバーに復元する。
- Enterprise Console の管理サーバーと管理コンソールを移行先サーバーにインストールする。
- 移行先サーバーでデータをバックアップする。
- レジストリキーおよび Secure Store を移行元サーバーから移行先サーバーにインポートする。
- 移行先サーバーのアップデートマネージャでアップデートされるよう、エンドポイントコンピュータを切り替える。
- アップデートポリシーの詳細を変更する。
- 移行先サーバーの Enterprise Console の管理対象となるよう、エンドポイントコンピュータを切り替える。
- 保護されていない子 SUM の参照先を、移行先サーバーのアップデートマネージャに切り替える。
- リモートコンソールの参照先を移行先サーバーに切り替える。

これらのステップの詳細は、この後のセクションを参照してください。

6 移行元サーバーの準備

移行元サーバーを準備するには、次の操作を行ってください。

- Update Manager のパスワードの確認 (p. 6)
- Sophos サービスの停止 (p. 6)
- データ、レジストリ、および Secure Store のバックアップ (p. 7)

6.1 Update Manager のパスワードの確認

Sophos Update Manager (SUM) のパスワードは、アップデートポリシーで設定されています。このパスワードは、エンドポイントが SUM からアップデート版を取得する際の認証に使用されます。

SUM のパスワードがわからない場合は再設定できます。この手順を実行すると、次のアップデート時にエンドポイントコンピュータの認証に失敗することに注意してください。

SUM のパスワードを再設定する方法は次のとおりです。

1. アカウント名とパスワードを把握するため、移行元サーバーで新しい Windows アカウントを作成します。このアカウントが Update Manager アカウントとして使用されます。
2. 「Windows エクスプローラ」で、アップデート元の共有の場所を表示します。デフォルトの格納場所は次のとおりです。
C:\ProgramData\Sophos\Update Manager\Update Manager
3. Update Manager フォルダを右クリックして、「プロパティ」を選択します。「プロパティ」ウィンドウの「共有」タブで、「アクセス許可」をクリックします。
4. 作成した Windows アカウントを追加し、読み取り権限を指定します。
5. Enterprise Console で、以前の Windows アカウントを使用しているアップデートポリシーを探して、新しい Windows アカウントを使用するように変更します。手順は次のとおりです。
 - a) アップデートポリシーを開き、「プライマリサーバー」タブを選択します。
 - b) 「ユーザー名」を新しいアカウント名に変更します。
 - c) 「変更」をクリックして、新しいパスワードを指定します。
6. このポリシーをすべてのエンドポイントに適用します (各グループを右クリックし、「ポリシーの適用 > グループのアップデート ポリシー」を選択します)。
7. すべてのエンドポイントが、更新したアップデートポリシーに準拠していることを確認します (「ポリシーと異なるコンピュータ」がないことを確認します)。

移行先サーバーでワークグループ/ローカルアカウントを使用する場合は、移行元サーバーのアカウントとアカウント名およびパスワードが同じ新しい Windows ユーザーアカウントを、移行先サーバーで作成する必要があります。

これで、Update Manager のパスワードを再設定できました。

6.2 Sophos サービスの停止

移行元サーバーで次の操作を実行します。

1. Enterprise Console を閉じます。
2. 「コマンド プロンプト」ウィンドウを開きます。

3. エンドポイントの通信サービスを停止します。停止するには、次のコマンドを入力します。

```
net stop "Sophos Message Router"
net stop "Sophos Patch Endpoint Communicator"
net stop "Sophos Certification Manager"
```

注

エンドポイントの通信サービスを停止後、数分間待機することを推奨します。メッセージがメモリのキューにキャッシュされている場合、それが処理されます。

4. データ処理サービスとフロント エンド サービスを停止します。

サービスを停止するには、次のコマンドを入力します。

```
net stop "Sophos Patch Server Communicator"
net stop "Sophos Management Host"
net stop "Sophos Patch Endpoint Orchestrator"
net stop "Sophos Management Service"
net stop "Sophos Update Manager"
```

これで、Sophos サービスを停止できました。

6.3 データ、レジストリ、および Secure Store のバックアップ

移行元サーバーで次の操作を実行します。

1. Enterprise Console のインストール先ディレクトリで、コマンドプロンプトを開きます。

Windows バージョン	デフォルトの場所
32ビット	C:\Program Files\Sophos\Enterprise Console
64ビット	C:\Program files (x86)\Sophos\Enterprise Console

2. 次のコマンドを入力して、データベースをバックアップします。

```
DataBackupRestore.exe -Action=backup
```

確認メッセージが表示され、Backup フォルダが作成されます。また、Database サブフォルダ、レジストリキー、および Secure Store 情報が、次の場所に作成されます。

```
%ALLUSERSPROFILE%\Sophos\ManagementServer\
```

3. 作成した Backup フォルダ内に、次の 2つの新規フォルダを作成します。

- Router
- DataBackupRestore

4. table_router.txt ファイルを、先ほど作成した Router フォルダにコピーします。table_router.txt ファイルの場所はデフォルトで次のとおりです。

```
%ALLUSERSPROFILE%\Sophos\Remote Management System\3\Router\table_router.txt
```

5. Envelopes フォルダを、先ほど作成した Router フォルダにコピーします。Envelopes フォルダの場所はデフォルトで次のとおりです。

%ALLUSERSPROFILE%\Sophos\Remote Management System\3\Router\Envelopes

注

未対応のメッセージがない場合、Envelopes フォルダは空です。

6. Enterprise Console インストールディレクトリを参照します。

Windows バージョン	デフォルトの場所
32ビット	C:\Program Files\Sophos\Enterprise Console
64ビット	C:\Program files (x86)\Sophos\Enterprise Console

7. 次のファイルやフォルダを、先ほど作成した DataBackupRestore フォルダにコピーします。

- Metadata (フォルダの内容すべて)
- BackupRestore.proj
- DataBackupRestore.exe
- DataBackupRestore.exe.config
- ResetUserMappings.sql
- TBK.bat
- TRS.bat

これで、データ、レジストリ、および Secure Store のバックアップは完了です。

7 Enterprise Console のデータベースのインストール

移行先サーバーで次の操作を実行します。

1. Enterprise Console のインストーラを、Sophos Enterprise Console のダウンロードページからダウンロードします。

<http://www.sophos.com/ja-jp/support/downloads/console/sophos-enterprise-console.aspx>

この際、MySophos のアカウント情報を入力する必要があります。

2. インストーラを参照し、ダブルクリックします。
3. 「**Sophos Endpoint Security and Control ネットワーク インストーラ**」ダイアログボックスで、「**インストール**」をクリックします。
インストールファイルがコピーされ、インストールウィザードが起動します。
4. 「**Sophos Enterprise Console**」ダイアログボックスで、「**次へ**」をクリックします。
5. ウィザードの指示に従ってインストールを行います。次の手順を実行してください。
 - a) 可能な限り、デフォルトの設定をそのまま選択します。
 - b) 「**コンポーネントの選択**」ダイアログボックスで、「**データベース**」のみを選択します。
 - c) 「**データベースの詳細**」ダイアログボックスで、データベースアクセス用のユーザー名を入力します。
6. インストールが完了したら、「**はい**」または「**完了**」をクリックします。

これで、Enterprise Console のデータベースのコンポーネントをインストールできました。

8 データベースと証明書のレジストリキーの復元

データベースと証明書のレジストリキーを移行元サーバーから移行先サーバーに復元する方法は次のとおりです。

1. 次の場所に「ManagementServer」というフォルダを作成します。
%ALLUSERSPROFILE%\\$Sophos¥
2. 移行元サーバーの Backup フォルダを、移行先サーバーで作成した ManagementServer フォルダにコピーします。
フォルダへのパスは ...¥Sophos¥ManagementServer¥Backup のように指定されるはずですが。
3. DataBackUpRestore フォルダで、コマンドプロンプトを開きます。
%ALLUSERSPROFILE%\\$Sophos¥ManagementServer¥Backup¥DataBackUpRestore¥
4. 次のコマンドを入力して、データベースを復元します。
DataBackupRestore -Action=Restore -DataSourceType=Database
確認のメッセージが表示されたら、「y」を入力します。

注

「**Build succeeded**」メッセージが、「**Restore database successfully processed**」メッセージと共に表示されることを確認してください。「**Failed to restore**」メッセージと共に表示される場合は、(ご利用の SQL Server のバージョンによって変わってきますが、たとえば) %ProgramFiles%\Microsoft SQL Server¥MSSQL10.SOPHOS¥MSSQL¥Backup¥を参照して、ファイルへのアクセス権 (読み取り権限) が、使用中の SQL Server サービスアカウントにあることを確認してください。アクセス権がない場合は、SQL Server サービスアカウントに読み取り権限を付与してから、コマンドを再実行してください。

5. Backup フォルダを参照します。
%ALLUSERSPROFILE%\\$Sophos¥ManagementServer¥Backup
6. 「CertificationManager.reg」というレジストリファイルを右クリックして、「**結合**」選択し、確認メッセージで「はい」をクリックします。

注

32ビットコンピュータと 64ビットコンピュータ間で移行する場合は、レジストリキーを編集する必要があります。詳細は、[補足 B: エクスポートしたレジストリ ファイルの編集 \(p. 27\)](#)を参照してください。

これで、データベースと証明書のレジストリキーを復元できました。

9 Enterprise Console の管理サーバーおよび管理コンソールのインストール

移行先サーバーで次の操作を実行します。

1. Enterprise Console のインストーラを参照し、ダブルクリックします。
2. 「**Sophos Enterprise Console**」ダイアログボックスで、「**次へ**」をクリックします。
3. ウィザードの指示に従ってインストールを行います。次の手順を実行してください。
 - a) 可能な限り、デフォルトの設定をそのまま選択します。
 - b) 「**コンポーネントの選択**」ダイアログボックスで、「**管理サーバー**」および「**管理コンソール**」を選択します。
 - c) 「**データベースの詳細**」ダイアログボックスで、データベースアクセス用のアカウント情報を入力します。
 - d) 「**Sophos Update Manager のアカウント情報**」ダイアログボックスに Update Manager アカウントとして使用する Windows ユーザーアカウント (前述の [Update Manager のパスワードの確認](#) (p. 6) で設定したもの) を入力し、インストールを続行します。
4. インストールが完了すると、再起動するようメッセージが表示されることがあります。「**はい**」または「**完了**」をクリックします。

注

インストール後、はじめてログオン (または再起動) すると、アップデートマネージャが設定されていないという旨の警告メッセージが表示されますが、キャンセルして Enterprise Console を閉じます。

これで、Enterprise Console の管理サーバーおよび管理コンソールをインストールできました。

9.1 Sophos サービスの停止

1. Enterprise Console が閉じていることを確認します。
2. エンドポイントの通信サービスを停止します。この手順は次のとおりです。
 - a) 「コマンド プロンプト」ウィンドウを開きます。
 - b) 次のコマンドを入力します。


```
net stop "Sophos Message Router"
net stop "Sophos Patch Endpoint Communicator"
net stop "Sophos Certification Manager"
```
3. データ処理サービスとフロント エンド サービスを停止します。
 サービスを停止するには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。


```
net stop "Sophos Patch Server Communicator"
net stop "Sophos Management Host"
net stop "Sophos Patch Endpoint Orchestrator"
net stop "Sophos Update Manager"
```

これで、Sophos サービスを停止できました。

10 移行先サーバーのデータのバックアップ

移行先サーバーでデータをバックアップする必要があります。バックアップは、後でレジストリ値をインポートする際に使用されます。

1. 次の場所にある Backup フォルダの名前を Old_Server_Backup に変更します。
%ALLUSERSPROFILE%\Sophos\ManagementServer\Backup
2. Enterprise Console のインストール先ディレクトリで、コマンドプロンプトを開きます。

Windows バージョン	デフォルトの場所
32ビット	C:\Program Files\Sophos\Enterprise Console
64ビット	C:\Program files (x86)\Sophos\Enterprise Console

3. 次のコマンドを入力して、データベースをバックアップします。
DataBackupRestore.exe -Action=backup
確認メッセージが表示され、Backup フォルダが作成されます。また、Database サブフォルダ、レジストリキー、および Secure Store 情報が、次の場所に作成されます。
%ALLUSERSPROFILE%\Sophos\ManagementServer\
4. 作成した新規 Backup フォルダの名前を New_Server_Backup に変更します。
5. 次に、Old_Server_Backup フォルダの名前を Backup に変更します。
6. Sophos Management Service を停止します。この手順は次のとおりです。
 - a) 「コマンド プロンプト」ウィンドウを開きます。
 - b) 次のコマンドを入力します。
net stop "Sophos Management Service"

これで、移行先サーバーのデータのバックアップは完了です。

11 レジストリおよび Secure Store のインポート

- Enterprise Console のインストール先ディレクトリで、コマンドプロンプトを開きます。

Windows バージョン	デフォルトの場所
32ビット	C:\Program Files\Sophos\Enterprise Console
64ビット	C:\Program files (x86)\Sophos\Enterprise Console

- Management Service のデータベース接続ストリングのレジストリ値を確認します。この手順は次のとおりです。

- 「レジストリ エディタ」を開き、Sophos というレジストリキーを参照します。

Windows バージョン	デフォルトの場所
32ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Sophos\EE\Management Tools
64ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Sophos\EE\Management Tools

- 右側のペインで「**DatabaseConnectionMS**」という項目を選択します。

「**DatabaseConnectionMS**」という値には、次のような文字列が含まれます。

```
Provider=SQLOLEDB;Integrated Security=SSPI;Initial Catalog=SOPHOS550;Data Source=(local)\SOPHOS;
```

- 「編集」メニューの「修正」をクリックします。

- 「値のデータ」の「DataSource」フィールドに、移行先サーバーのホスト名と SQL インスタンスが指定されていることを確認します。例: Data Source=(local)\SOPHOS;

SQL サーバーのインスタンスが別のサーバーにインストールされている場合は、(local) の部分をそのサーバーの名前に変更してください。データベースで使用されているインスタンスが、既存のインスタンスか新しいインスタンスか確認し、必要に応じて値を変更します。

- 移行先サーバーのホスト名が指定されるよう、ServerLocation レジストリ値を変更してください。この手順は次のとおりです。

- Sophos というレジストリキーを参照します。

Windows バージョン	デフォルトの場所
32ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Sophos\EE\Management Tools
64ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Sophos\EE\Management Tools

- b) 右側のペインで「**ServerLocation**」という項目を選択します。
 - c) 「**編集**」メニューの「**修正**」をクリックします。
 - d) 「**値のデータ**」で、移行元サーバーのホスト名を移行先サーバーのホスト名に置き換えます。
4. 移行先サーバーのホスト名が指定されるよう、Instance レジストリキーを変更してください。この手順は次のとおりです。
- a) Sophos というレジストリキーを参照します。

Windows バージョン	デフォルトの場所
32ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Sophos¥EE¥ManagementTools¥Database Installer
64ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Sophos¥EE¥Management Tools¥Database Installer

- b) 右側のペインで「**Instance**」という項目を選択します。
 - c) 「**編集**」メニューの「**修正**」をクリックします。
 - d) 「**値のデータ**」で、移行元サーバーのインスタンス名を移行先サーバーのインスタンス名に置き換えます。例: Data Source=(local)¥SOPHOS;
5. Sophos Update Manager でワークグループ/ローカルアカウントを使用している場合は、SumUser のレジストリ値を変更してください。この手順は次のとおりです。
- a) Sophos というレジストリキーを参照します。レジストリキーの場所は次のとおりです。

Windows バージョン	デフォルトの場所
32ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Sophos¥EE¥Management Tools¥SumUser
64ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Sophos¥EE¥Management Tools¥SumUser

- b) ManagementTools.reg ファイルから、**SumUserName** および **SumUserData** のレジストリ値を取得します。
ManagementTools.reg ファイルは、[データ、レジストリ、および Secure Store のバックアップ](#) (p. 7)で作成した **New_Server_Backup** フォルダ内にあります。
 - c) 既存の **SumUserName** および **SumUserData** の値を、ManagementTool.reg ファイルで指定されている値に置き換えます。
6. データベースでワークグループ/ローカルアカウントを使用している場合は、移行先サーバーのホスト名が指定されるよう、DatabaseUser レジストリ値を変更してください。この手順は次のとおりです。
- a) Sophos というレジストリキーを参照します。

Windows バージョン	デフォルトの場所
32ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Sophos¥EE¥Management Tools¥DatabaseUser

Windows バージョン	デフォルトの場所
64ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Sophos¥EE¥Management Tools¥DatabaseUser

- b) 右側のペインで「**DatabaseUserDomain**」という項目を選択します。
- c) 「編集」メニューの「修正」をクリックします。
- d) 「値のデータ」で、移行元サーバーのホスト名を移行先サーバーのホスト名に置き換えます。

注

移行先サーバーへのインストール時に別のデータベース用アカウントを使用した場合は、追加で次の操作が必要となります。

- e) ManagementTools.reg ファイルから、**DatabaseUserName** および **DatabaseUserPassword** のレジストリ値を取得します。
ManagementTools.reg ファイルは、[移行先サーバーのデータのバックアップ](#) (p. 13) で作成した **New_Server_Backup** フォルダ内にあります。
 - f) 既存の **DatabaseUserName** および **DatabaseUserPassword** の値を、ManagementTool.reg ファイルで指定されている値に置き換えます。
7. 移行先サーバーのホスト名およびポート (インストール時に別のポートが指定された場合) が指定されるよう、PatchServerURL レジストリ値を変更してください。この手順は次のとおりです。
- a) Sophos というレジストリキーを参照します。

Windows バージョン	デフォルトの場所
32ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Sophos¥EE¥Patch¥
64ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Sophos¥EE¥Patch¥

- b) 右側のペインで「**PatchServerURL**」という項目を選択します。
 - c) 「編集」メニューの「修正」をクリックします。
 - d) 「値のデータ」で、移行元サーバーのホスト名を移行先サーバーのホスト名およびポート (別のポートを使用している場合) に置き換えます。
8. table_router.txt ファイルを、移行元サーバーの Router フォルダから、次の場所にある移行先サーバーに復元します。
- ```
%ALLUSERSPROFILE%¥Sophos¥Remote Management System¥3¥Router¥table_router.txt
```
9. Envelopes フォルダのコンテンツを、移行元サーバーの Router フォルダから、次の場所にある移行先サーバーに復元します。
- ```
%ALLUSERSPROFILE%¥Sophos¥Remote Management System¥3¥Router¥Envelopes
```

注

未対応のメッセージがない場合、Envelopes フォルダは空です。

10. Enterprise Console のインストール先ディレクトリで、コマンドプロンプトを開きます。
11. 次のコマンドを入力して、Secure Store をインポートします。

DataBackupRestore -Action=Restore -DataSourceType=SecureStore

確認のメッセージが表示されたら、「y」と入力します。

これで、レジストリおよび Secure Store のインポートは完了です。

11.1 すべての Sophos サービスの開始

移行先サーバーで次の操作を実行します。

1. エンドポイントの通信サービスを開始します。開始するにはコマンドプロンプトを開き、次のコマンドを実行します。

```
net start "Sophos Message Router"
```

```
net start "Sophos Patch Endpoint Communicator"
```

```
net start "Sophos Certification Manager"
```

2. データ処理サービスとフロント エンド サービスを開始します。

サービスを開始するには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
net start "Sophos Patch Server Communicator"
```

```
net start "Sophos Management Host"
```

```
net start "Sophos Patch Endpoint Orchestrator"
```

```
net start "Sophos Management Service"
```

```
net start "Sophos Update Manager"
```

これで、すべての Sophos サービスを開始できました。

12 エンドポイントの参照先を移行先サーバーのアップデートマネージャに変更する方法

エンドポイントコンピュータが、移行先サーバーの Sophos Update Manager (SUM) でアップデートされるように設定を変更する必要があります。また、アップデートマネージャについても、ソフォスからアップデート版をダウンロードするように必ず設定を変更してください。

1. 移行先サーバーで Enterprise Console を開きます。
2. 「表示」メニューの「アップデートマネージャ」をクリックします。
アップデートマネージャの一覧に、移行先サーバーの SUM が表示されます。
3. 移行元サーバーのアップデートマネージャをダブルクリックし、「アップデート元」タブにあるエントリすべてを削除します。「OK」をクリックします。
4. 移行先サーバーのアップデートマネージャをダブルクリックし、必要に応じて、「アップデート元」、「サブスクリプション」、「配布」などのタブを設定します。
5. 移行先サーバーのアップデートマネージャに対して、「前回のアップデート日時」カラムが、「実行されていません」から現在の日時に変わるまで待ちます。
6. 子 SUM がある場合は、移行先サーバーのアップデートマネージャを指定するように、それぞれ設定します。

これで、エンドポイントの参照先を移行先サーバーのアップデートマネージャに変更できました。

13 アップデートポリシーの設定

移行先サーバーで、アップデートポリシーのアカウント情報を設定する必要があります。この手順は次のとおりです。

1. Enterprise Console で、編集するアップデートポリシーをダブルクリックします。
「**アップデートポリシー**」ダイアログボックスが表示されます。

注

子 SUM を指定するアップデートポリシーは、変更しないでください。

2. 「**プライマリサーバー**」タブで、移行先サーバーのアドレスを指定するよう「**アドレス**」を変更します。
3. 「**ユーザー名**」を変更し、「**変更**」をクリックして、新しいパスワードを指定します。
4. 必要に応じて、「**セカンダリサーバー**」の設定も変更します。
5. 「**OK**」をクリックして設定を保存します。
6. 「**表示**」メニューの「**アップデートマネージャ**」をクリックし、アップデートマネージャの一覧で、移行元サーバーのアップデートマネージャを右クリックし、「**削除**」をクリックします。

これで、アップデートポリシーを設定できました。

14 エンドポイントの参照先を移行先 Enterprise Console にリダイレクトする方法

エンドポイントの参照先を移行先 Enterprise Console にリダイレクトするには、移行先 Enterprise Console でエンドポイントを再保護します。

注

エンドポイントの台数が多い場合や、その他の理由でエンドポイントを保護し直すことができない場合は、代替手順について、ソフォスのサポートデータベースの文章 116737 を参照してください。 (<http://www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/116737.aspx>)

コンピュータを保護する方法の詳細は、Sophos Enterprise Console ヘルプの「コンピュータの保護」のセクションを参照してください。

コンピュータを保護する方法は次のとおりです。

1. 保護するコンピュータがグループに所属しているかどうかに応じて、次のいずれかの手順を実行してください。
 - 保護するコンピュータが「**グループ外のコンピュータ**」フォルダにある場合は、それらのコンピュータをグループにドラッグします。
 - 既にグループに所属している場合は、保護するコンピュータを選択して右クリックし、「**コンピュータの保護**」をクリックします。「**コンピュータの保護 ウィザード**」が表示されます。
2. 「**インストールの種類**」ページで、再保護の際に使用するセキュリティ対策ソフトを選択します。
3. ウィザードの指示に従います。「**機能の選択**」ページで、インストールする機能を選択します。

注

機能に対するシステム要件の詳細は、ソフォス Web サイトの「システム要件」 (<http://www.sophos.com/ja-jp/products/all-system-requirements.aspx>) を参照してください。

ウイルス対策機能は、自動的に選択・インストールされます。また、任意で次の機能をインストールできます。一部の機能については、ライセンスに含まれている場合だけ利用できます。

- **Firewall**
 - **Patch**
 - **Third-Party Security Software Detection**
4. インストール中に発生した問題はすべて、「**保護のサマリー**」ページの「**保護に関する問題**」カラムに表示されます。「**次へ**」をクリックします。
 5. 「**アカウント情報**」ページで、選択したソフトウェアのインストールに使用できるアカウントの詳細を入力します。

このアカウントは、通常、ドメイン管理者アカウントです。次の条件を満たしている必要があります。

 - 保護するコンピュータへのローカル管理者権限がある。

- 管理サーバーをインストールしたコンピュータにログオンできる。
- **アップデート**ポリシーで指定したプライマリサーバーの場所に対する読み取り権限がある。

注

ドメインアカウントを使用している場合は、必ず、ドメイン名¥ユーザー名 という形式でユーザー名を入力してください。

これで、エンドポイントの参照先を移行先 Enterprise Console にリダイレクトできました。

15 保護されていない子 SUM を移行先サーバーのアップデートマネージャにリダイレクトする方法

Sophos Endpoint Security and Control で保護されている子 SUM は、アップデートポリシーにより自動的に新しい親 SUM にリダイレクトされます。

保護されていない SUM については、次の手順で手動設定を行って、すべて新しい親 SUM に接続するようにしてください。

1. 移行先サーバーで、Enterprise Console のフォルダから `mrinit.conf` と `cac.pem` というファイルをコピーします。

Windows バージョン	デフォルトの場所
32ビット	C:\Program Files\Sophos\Enterprise Console
64ビット	C:\Program files (x86)\Sophos\Enterprise Console

2. すべての子 SUM で次の手順を実行します。
 - a) コピーした `mrinit.conf` と `cac.pem` を、Remote Management System フォルダに貼り付けます。

Windows バージョン	デフォルトの場所
32ビット	C:\Program Files\Sophos\Remote Management System
64ビット	C:\Program files (x86)\Sophos\Remote Management System

- b) Remote Management System ディレクトリでコマンドプロンプトを開きます。
- c) `ClientMrInit.exe -update` コマンドを実行します。

これで、保護されていない子 SUM を移行先サーバーのアップデートマネージャにリダイレクトできました。

16 リモートコンソールの参照先を移行先サーバーにリダイレクトする方法

別のコンピュータにインストールされている各 Enterprise Console について、当該のコンピュータで次の操作を行ってください。

1. Enterprise Console のインストーラパッケージを起動します。
2. デフォルトのインストール先フォルダ、または任意のフォルダにインストールファイルを展開します。アップグレードするコンピュータ上のフォルダのみ指定できます。インストールウィザードが起動します。
3. 「**Sophos Enterprise Console**」ダイアログボックスで、「**次へ**」をクリックします。
4. ウィザードの指示に従ってインストールを行います。次の手順を実行してください。
 - a) 可能な限り、デフォルトの設定をそのまま選択します。
 - b) 「**コンポーネントの選択**」ダイアログボックスで、「**管理コンソール**」を選択して、「**次へ**」をクリックします。
 - c) 「**管理コンソール**」ダイアログボックスで、移行先サーバーの名前を入力します。移行先サーバーで別のポートを使用している場合は、ポート番号を更新してください。

注

リモートコンソールと移行先サーバーが Active Directory ドメインに所属している場合、データベースの詳細を入力するようプロンプト表示されます。入力の際は、移行先サーバーへの Enterprise Console インストール時に、データベースアクセス用に使用したアカウントと同じアカウントを必ず使用するように入力してください。

5. インストールウィザードを続行して、インストールしたコンソールの設定を更新します。
これで、リモートコンソールの参照先を移行先サーバーにリダイレクトできました。

17 移行元サーバーの使用の停止

注

保護を提供している移行元サーバーの使用を、移行後も停止する予定がない場合は、移行元サーバーを、移行先 Enterprise Console サーバーを使って再保護し、管理対象コンピュータに指定する必要があります。

移行元サーバーの使用を停止する方法は次のとおりです。

1. 移行元サーバーを廃棄する場合は、ハードディスクのデータを完全に消去するか、ハードディスク自体を物理的に破壊することを推奨します。
2. 移行元サーバーを再利用する場合は、Windows のコントロール パネルから、Enterprise Console および Microsoft SQL Server をアンインストールした後、データベースを削除してください。

これで、移行元サーバーの使用を停止できました。

18 補足

18.1 補足 A: 移行先サーバーの準備

ソフォス製品を過去にインストールしたことのあるサーバー、または現在インストール済みのサーバーを使用する場合は、ソフォス製品のすべてのコンポーネントを確実にアンインストールした後、次の操作を実行してください。

1. 「**レジストリ エディタ**」を開きます。「**スタート - ファイル名を指定して実行**」の順にクリックして regedit と入力し、「**OK**」をクリックします。
2. レジストリのバックアップを作成します。
レジストリのバックアップを作成する方法の詳細は、マイクロソフト社のドキュメントを参照してください。
3. 「**レジストリ エディタ**」ウィンドウで、Sophos というレジストリキーの格納場所を参照します。

Windows バージョン	レジストリキーの格納場所
32ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Sophos
64ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Sophos

Sophos というレジストリキーがあれば削除します。「**レジストリ エディタ**」ウィンドウを閉じます。

4. Sophos というインストール先フォルダを参照します。

Windows バージョン	デフォルトのパス
32ビット	C:¥Program files¥Sophos
64ビット	C:¥Program files (x86)¥Sophos

このフォルダが存在する場合、そのコンテンツ (すべてのサブフォルダを含みます) のバックアップを作成し、セキュリティで保護されている場所に保存した後、フォルダを削除します。

5. Sophos という Common Files のインストール先を参照します。

Windows バージョン	デフォルトのパス
32ビット	C:¥Program files¥Common Files¥Sophos
64ビット	C:¥Program files (x86)¥Common Files¥Sophos

このフォルダが存在する場合、そのコンテンツ (すべてのサブフォルダを含みます) のバックアップを作成し、セキュリティで保護されている場所に保存した後、フォルダを削除します。

6. データベースのバックアップ先を参照します。(ご利用の SQL Server のバージョンによって変わりますが) 以下の例のようになります。

Windows バージョン	デフォルトのパス
32ビット	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL10.SOPHOS\MSSQL\Backup
64ビット	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL10.SOPHOS\MSSQL\Backup

このフォルダが存在する場合、そのコンテンツ (すべてのサブフォルダを含みます) のバックアップを作成し、セキュリティで保護されている場所に保存します。Enterprise Console データベースのバックアップファイル (.bak files) を削除します。

ファイル名は「SOPHOS」ではじまり、通常 Enterprise Console のバージョン番号を含みます。各バージョンのコンソールに対応するデータベースのファイル名について、詳細はソフォス サポートデータベースの文章 17323 (<http://www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/17323.aspx>) を参照してください。たとえば、Enterprise Console 5.5.0 のデータベースのバックアップファイルは、次のとおりです。

- SOPHOS550.bak
 - SOPHOSPATCH52.bak
 - SophosSecurity.bak
7. データベースのデータの格納場所を参照します。(ご利用の SQL Server のバージョンによって変わりますが) 以下の例のようになります。

Windows バージョン	デフォルトのパス
32ビット	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL10.SOPHOS\MSSQL\DATA
64ビット	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL10.SOPHOS\MSSQL\DATA

このフォルダが存在する場合、そのコンテンツ (すべてのサブフォルダを含みます) のバックアップを作成し、セキュリティで保護されている場所に保存します。Enterprise Console のデータベースファイル (.mdf files) およびトランザクションログのファイル (.ldf files) を削除します。

ファイル名は「SOPHOS」ではじまり、通常 Enterprise Console のバージョン番号を含みます。各バージョンのコンソールに対応するデータベースのファイル名について、詳細はソフォス サポートデータベースの文章 17323 (<http://www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/17323.aspx>) を参照してください。たとえば、Enterprise Console 5.5.0 のデータベースファイルおよびトランザクションログのファイルは、次のとおりです。

- SOPHOS550.mdf
- SOPHOS550_log.ldf
- SOPHOSPATCH52.mdf
- SOPHOSPATCH52_log.ldf
- SophosSecurity.mdf
- SophosSecurity_log.ldf

これで、移行先サーバーの準備が完了しました。

18.2 補足 B: エクスポートしたレジストリ ファイルの編集

32ビットコンピュータと 64ビットコンピュータの間で移行を行う場合、レジストリ キーをエクスポート・インポートするとき、任意のテキストエディタでエクスポートしたレジストリファイルを開き、Sophos というレジストリ値を次のように変更する必要があります。もっとも簡単で確実な方法は文字列を検索・置換することです。

Windows バージョン	デフォルトのインストール先	「Sophos」レジストリの格納場所
32ビット	C:¥Program files	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Sophos
64ビット	C:¥Program files (x86)	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Sophos

32ビットコンピュータから 64ビットコンピュータへの移行

1. Windows の「メモ帳」で出力したレジストリを開きます。
2. 「編集」メニューの「置換」をクリックします。
3. 「検索する文字列」に ¥SOFTWARE¥Sophos¥ と入力し、「置換後の文字列」に ¥SOFTWARE ¥Wow6432Node¥Sophos¥ と入力します。
4. 「すべて置換」をクリックします。
5. 「検索する文字列」に C:¥¥Program Files¥¥Sophos¥¥Update Manager と入力し、「置換後の文字列」に C:¥¥Program Files (x86)¥¥Sophos¥¥Update Manager と入力します。
6. 「すべて置換」をクリックします。
7. ファイルを保存し「メモ帳」を終了します。

64ビットコンピュータから 32ビットコンピュータへの移行

1. Windows の「メモ帳」で出力したレジストリを開きます。
2. 「編集」メニューの「置換」をクリックします。
3. 「検索する文字列」に ¥Wow6432Node¥Sophos¥ と入力し、「置換後の文字列」に ¥Sophos¥ と入力します。
4. 「すべて置換」をクリックします。
5. 「検索する文字列」に C:¥¥Program Files (x86)¥¥Sophos¥¥Update Manager と入力し、「置換後の文字列」に C:¥¥Program Files¥¥Sophos¥¥Update Manager と入力します。
6. 「すべて置換」をクリックします。
7. ファイルを保存し「メモ帳」を終了します。

19 テクニカルサポート

ソフォス製品のテクニカルサポートは、次のような形でご提供しております。

- ユーザー コミュニティ サイト「Sophos Community」(英語) (community.sophos.com/) のご利用。さまざまな問題に関する情報を検索できます。
- ソフォス サポートデータベースのご利用。 www.sophos.com/ja-jp/support.aspx
- 製品ドキュメントのダウンロード。 www.sophos.com/ja-jp/support/documentation.aspx
- オンラインでのお問い合わせ。 <https://secure2.sophos.com/ja-jp/support/contact-support/support-query.aspx>

20 利用条件

Copyright © 2018 .All rights reserved.この出版物の一部または全部を、電子的、機械的な方法、写真複写、録音、その他いかなる形や方法においても、使用許諾契約の条項に準じてドキュメントを複製することを許可されている、もしくは著作権所有者からの事前の書面による許可がある場合以外、無断に複製、復元できるシステムに保存、または送信することを禁じます。

、および は、および の登録商標です。その他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。